

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・作品作りに意欲的に取り組み、表現することを楽しんでいる姿が見られる。
- ・自ら既習の技能を作品に取り入れようとする姿が見られる。

(2) 課題

- ・題材ごとに応用できる既習の用具や材料を明確に示し、児童の思考・判断を促し表現力を高めること。
- ・題材に取り組む過程で言語化する機会を増やし、その都度考えを深めて制作すること。
- ・鑑賞活動を通して他児の作品のいい所を見付け、自分の作品を振り返る際に自分の作品の良さを改めて見付ける機会を設けること。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な技能を丁寧に指導し、何度も繰り返し取り組める環境を整えることで、技能を確実に身に付けていく。 ・技能に親しみをもてる名前を付けて指導することで、覚えやすくし、他題材でも応用できるようにする。	・導入では思い付いたことを児童に聞き、言葉を板書し共有することで、様々な考えがあることを学び合えるようにする。 ・発表の機会を設け、作品の説明を指し示しながらできるようにする。	・楽しく表現したり鑑賞したりする態度を養い、ICTを活用して題材ごとに鑑賞の時間を設け、互いの作品の良さを共有させていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・前題材までに学習した用具を図工室内に用意することで、常に各題材で応用できる環境にする。 ・題材ごとに取り入れられる用具や相性がいい材料を板書し明確に示していく。	・題材によっては設計図を描き、余白に言葉で簡単に説明を書き込むことで考えを深められるようにする。 ・色や形など考えるポイントをめあてで明確に示し、自分のイメージをもてるようにする。	・作品の個性や良さをを感じる感性を高めるため、鑑賞の授業では交流活動の時間を設け、ICTを活用するなど、他児の考えに触れる機会を設ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様々な技法を取り入れた参考作品を提示する。 ・題材ごとに、既習の技能で取り入れたいものを児童から提案できる時間を設ける。	・歴史や自身の思い出などに関連付けた題材設定を行うことで、考えを深めやすくする。 ・美術作品を鑑賞して色や形などの造形的な特徴や表現の意図を伝え、感じたことを言葉で整理し伝え合う機会を設けていく。	・他児と互いの作品を鑑賞する際は、ICTを活用し、自分の作品を振り返って考えることができる設問をワークシートに設ける。